

調査と情報

編集・発行
 ㈱農林中金総合研究所 基礎研究部
 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-8-3
 TEL.03-3243-7331
 FAX.03-3246-1984
 URL: http://www.nochuri.co.jp
 E-mail: sugano@nochuri.co.jp

二〇〇〇年の世界の人口は約六一億人であるが、国連の世界人口予測によると、二〇五〇年には九四億人へと一・五倍になるとみられている。増加の大きい国をみると、インドが六億人、パキスタン・ナイジェリア・コンゴ・中国がそれぞれ二億人となっている。

このような予測には不確定要素が多いのであるが、アフリカ・アジアを中心とした発展途上国における人口爆発とその結果生じる地域的な人口構成の変化は、食料問題、教育問題、南北の経済格差と発展途上国の経済発展のあり方等、広範な問題を提起してくる。

発展途上国とは対照的に、先進国では出生率の低下が著しく、一九九九年の合計特殊出生率をみると、イタリアは一・二九、日本は一・三四、ドイツは一・三六、英国は一・六八、フランスは一・七七等となっており、人口の維持に必要な水準を満たしているのは米国(二・〇八)のみである。この結果、今後先進国では、米国を除き人口は横ばいしないし減少基調で推移していくことが予想されている。

人口減少が即マイナスの出来事といえるかどうかについては議論の余地があるが、人口の大幅な増減や地域的偏りは、経済・社会にさまざまな影響を及ぼす。とくにわが国では、出生率の低下

人口爆発の中での人口減少

が急激に進んできたことから、人口減少に伴う問題がより鮮明に表れることが懸念される。その一つは、全国的にすすむと予想される高齢化であり、もう一つは、人口減少と高齢化がとくに中山間地域で顕著にすすみ生活条件・経済条件の制約が強まるという問題である。

わが国における地域別にみた人口の見通しとそれに伴って生じる問題については「農林金融」二〇〇二年九月号に詳述したのでここでは省略するが、今後とくに重要になるのは、中山間地域における農業の振興を含む地域活性化への取り組みをいかにして進めるかということであろう。出来合いの決め手となる手法があるわけではなく、難しい課題ではあるが、すでに全国各地でさまざまな取り組みが行われていることも事実である。このような動きをお互いに触発させ合い、大きな流れを生み出していくことが求められている。

また、このような取り組みを進めるうえで、農協等の地域協同組織の果たす役割は極めて大きい。地域全体の将来方向を見極めつつ将来のビジョンを描き、地域住民とのつながりをさらに強めて事業を展開していくことが望まれよう。

(基礎研究部長 石田信隆)

今月のテーマ：中山間地域の担い手

人口爆発の中での人口減少.....	1
イギリスの地域再生政策と日本の中山間地域問題...	2
農協の営農指導事業と中山間地域農業の担い手育成...	3~4
山村における森林組合の役割を考える...	5~6
口蹄疫発生後の宮崎県畜産の現状.....	7~8

ぶっくレビュー『アメリカ食肉産業と新世代農協』...	9
あぜみち.....	10
フードシステム.....	10~11
統計の眼「直接支払制度への早急な取り組みが期待される高齢化地域」...	12
編集後記.....	12